

絵を描くこと

本を読むことが好き

黒須康太君（三本木）



第28回小学生公園絵画展で見事最優秀賞に輝いた黒須康太君（坂上小2年）に話を伺いました。

10月の都市緑化月間行事の 일환として、身近な公園や造ってほしい公園の絵画を募集したところ、2709点の応募がありました。最優秀賞だと聞いた時には「すごく嬉しかったです。」と笑顔で答えてくれました。

作品は、夏休みの期間に1週間かけて制作しました。クレヨンと鉛筆を使い、最後の仕上げには、紙を切り貼りし、夢のある作品に仕上がりました。

一番苦労したことを聞くと「お母さんのアドバイスで付けた、星などを切り貼るのが大変でした。でも、絵を描くことや本を読むことは好きなので（自分なりに）良くできた」と

今月の輝ける星

思います。」と話してくれました。

今回受賞した絵を見てみますと、「遊具で遊ぶのが大好き。」との言葉通り、滑り台や縄はしごなど、様々な遊具で遊ぶ子どもたちが描かれています。色合いも明るく、伸び伸びと遊ぶ子どもたちの楽しそうな雰囲気伝わってきます。

この作品は、来年度の都市緑化月間ポスターに採用され、県管理施設の公園に展示されます。

笑顔が素敵な黒須君は、坂上クラブで学童野球をしています。練習もまじめで授業が終わるとグラウンド整備、練習が始まると先輩たちの指示通りに、黙々とメニューをこなしているとのこと。

将来の夢はと尋ねると、「プロ野球選手になりたいです。」と元気に答えてくれました。



第28回小学生公園絵画展で最優秀賞に輝いた作品



まいりました。

ほうれん草は比較的手軽に栽培できますが、害虫被害で出荷できないものもあります。また、弱アルカリ質の土壌が好ましいため、地域によっては石灰をまいて、土壌を弱アルカリ性にさせたりと苦労もあるとのこと。

野沢さんは「ほうれん草は栄養価も高く、手軽に栽培できますよ。」と話してくれました。鉄分も多く、柔らかい繊維は消化吸収が良いため便秘予防に効果があります。これからの寒い時期に生産されるほうれん草は、ビタミンCも豊富で、霜に当たると甘みも増すとのこと。

調理方法について尋ねると、「自分はみそ汁か卵とじがいいですね。」と笑顔で話してくれました。

これからの目標については、「手軽にできるが、年々生産農家が減っているのので、後継者の育成に力を入れていきたい。」と語ってくれました。

わが町の農産物

ほうれん草 編

今月の農産物は身近な野菜のほうれん草です。

JA うつのみやほうれん草専門部会支部長の野沢一夫さん（多功下坪）に、話を伺いました。

現在町では、60人がほうれん草部会に所属しています。ほうれん草の栽培方法は路地栽培が主で、種を蒔いてから25日から30日程で出荷になる通年作物で、9月上旬から11月上旬が最盛期です。

以前は、かんぴょうの生産が終わった後に作付されていましたが、野沢さんのお宅では現在50アール栽培しており、始めた時期について尋ねると「物心がつく頃にはすでに栽培していました。」とのこと。

上三川産のほうれん草は、今年は比較的順調に生産されていますが、10月末に降った季節はずれのひょうで一部の地域が被害を受けてし

